

日本気象学会2012年度総会議事録

日 時：2012年5月28日（月）13時30分～15時10分

場 所：つくば国際会議場（茨城県つくば市）

参加者数：通常会員の会場出席者54名，総会参加票のうち有効票による出席者825名，合計879名。（通常会員現在総数1,058名（2012年4月12日現在））

総会成立の要件：通常会員現在総数の過半数以上の出席がなければ成立しない。ただし，総会に出席できない通常会員で，当該議事につき他の出席通常会員に表決を委任した者，および書面によって決議に参加した者は出席とみなす。（定款第38条）

議 事

1. 開会

経田理事より総会成立の要件を満たしていることが報告され，総会の開会が宣言された。

2. 議長選出

総会議長に瀬上哲秀会員（気象研究所長）を選出した。

3. 理事長挨拶

本大会の開催に尽力いただいた大会委員長を始めとする気象研究所の会員と講演企画委員会の皆様に
お礼申し上げる。各会場で熱のこもった講演と議論が行われていることを大変嬉しく思う。

昨年3月11日に発生した東日本大震災から1年余が過ぎ、津波や福島第一原子力発電所の事故の被害は
今なお深刻な影響をもたらしている。被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、1日も早
い復興をお祈り申し上げます。

震災に関して、昨年夏に「原子力関連施設の事故に伴う放射性物質拡散に関する作業部会」を設置し、
福島第一原子力発電所の事故対応の検討を重ねていただいた。また、第36期評議員会の中で、昨年3月18
日発出の理事長メッセージと今後の対応に関して有益なご議論をいただいた。同作業部会での議論を受
けて、原子力関連施設の安全性に関わる行政機関や委員会の長に対し、3月5日に理事長名の提言を行
った。提言に至った経緯については、同日付の理事長メッセージを発出した。さらに、春季大会シンポ
ジウムにて、甚大な災害に関わる防災情報の公開や提供に関する議論が行われた。

新しい公益法人法に基づく公益社団法人の申請が大詰めを迎えている。新法人の定款案について、昨
年12月に会員からの意見を募集し、本日最終的な定款案を審議いただく。総会で認められた場合公益
法人等認定委員会に申請を行うが、もし認定委員会から大きな改訂意見があると秋季大会にて臨時総会
を開催し改訂案の審議、再申請を行うというスケジュールとなるので、引き続きご協力をお願いする。

学術会議にて、大型研究計画のマスタープランの大幅改訂の議論が始まっている。気象学会でも、学会のサポートを希望する大型研究計画の新規提案を早急に募集し、学術委員会での検討を予定している。新規の提案がある方は提出の準備をお願いする。

地球惑星連合では、大気科学関連分野は大気海洋・環境セクションを中心として活動している。このセクション名の改訂が永らく議論されてきたが、気象学会が希望する「大気」を入れた大気水圏科学セクションへの変更で進むこととなった。また、連合のジャーナル創設に係わる問題も報告する。JMSJは永らく文科省あるいは学術振興会から出版助成を受けてきたが、文科省は国際的競争力を持つ日本発のオープンアクセスジャーナルを作るため、連合のような学会を束ねた団体に重点的に助成するという方針転換を打ち出した。連合は、既存のジャーナル誌との競合もやむをえないという方向転換を行い、この助成に応募する方針である。気象学会は、独自のJMSJ, SOLAを堅持する方針とし、連合の新しいジャーナルの動きに対し必要な発言を行っていく予定である。

いくつか委員会の活動を紹介する。社会における科学者の役割、そして不確定性のある情報をいかに社会に伝えるかが大きな課題になりつつある。この問題は、教育と普及委員会・地球環境問題委員会による公開気象講演会「地球温暖化問題における科学者の役割」や、気象災害委員会による、つくば市北部の北条地区等で発生した竜巻に関する緊急研究報告会で議論が行われた。地球環境問題委員会では、地球温暖化の正しい知識を普及するための本の刊行準備を進めており、学術委員会では、「日本の気象学の現状と展望」の準備を進めて近いうちに会員からの意見を募集する予定である。

総会参加票では今回も会員の皆様から貴重な意見を多数いただいた。理事会では真摯に受け止め、学会運営に生かして行きたい。

東京大学大気海洋研究所の阿部彩子会員が第32回猿橋賞を受賞された。第27回には高薮 縁会員が受賞されており、当学会から推薦の会員が5年をおいて受賞されたことは、当学会での女性会員のご活躍を示すものである。推薦に当たられた皆様に深く感謝申し上げます。

最後に、春季大会の開催に当たって尽力いただいた皆様に改めてお礼を申し上げます。

4. 表彰

(1) 日本気象学会賞

学会賞候補者推薦委員会委員長の余田理事が選定理由を説明し、新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

渡部 雅浩（東京大学大気海洋研究所）

階層的数値モデル群を用いた気候変動モードのメカニズム研究

(2) 藤原賞

藤原賞候補者推薦委員会委員長の藤谷理事が選定理由を説明し、新野理事長から受賞者に賞状並びに賞金・メダルが授与された。受賞者と、受賞対象となった業績は以下の通り。

中澤 高清（東北大学大学院理学研究科）

二酸化炭素等の温室効果気体に関する総合的研究による全球炭素循環の解明ならびに我が国における温室効果気体の観測的研究の推進への貢献

(3) 気象集誌論文賞及びSOLA論文賞

気象集誌編集委員会委員長の佐藤正樹理事が選定理由を説明した。受賞者と、受賞対象となった論文タイトルは以下の通り。

Kazumasa AONASHI and Hisaki EITO

“Displaced Ensemble Variational Assimilation Method to Incorporate Microwave Imager Brightness Temperatures into a Cloud-resolving Model”

Yosuke NIWA, Hirofumi TOMITA, Masaki SATOH and Ryoichi IMASU

“A Three-Dimensional Icosahedral Grid Advection Scheme Preserving Monotonicity and Consistency with Continuity for Atmospheric Tracer Transport”

Kozo NAKAMURA

“Reconsideration of Conditional Instability -Static Stability of a Saturated Air Parcel in an Unsaturated Environment-”

SOLA編集委員会委員長の三上理事が選定理由を説明した。受賞者と、受賞対象となった論文タイトルは以下の通り。

Hirokazu Endo

“Long-Term Changes of Seasonal Progress in Baiu Rainfall Using 109 Years (1901—2009) Daily Station Data”

Jun Inoue, Masatake E. Hori, Takeshi Enomoto, and Takashi Kikuchi

“Intercomparison of Surface Heat Transfer Near the Arctic Marginal Ice Zone for Multiple Reanalyses: A Case Study of September 2009”

5. 2012年度総会議案審議

(1) 提案説明

議案1：2011年度事業報告

経田理事から、会員数の動向、機関誌等の刊行、大会及び研究会等の開催、研究業績の表彰、普及活動、支部活動、東日本大震災関連、公益社団法人への移行認定関連等の事業報告があった。

議案2：2011年度収支決算報告

徳廣理事から、収支計算書等に基づく決算報告があり、黒字決算であることが報告された。

議案3：2011年度監査報告

高木監事から、帳簿類の管理、収支、会員数の動向等に関する監査結果が報告された。

2011年度の活動について、機関誌の順調な刊行と研究業績の表彰、一般向けの積極的な教育普及活動と部外機関との連携の強化について高い評価を受けた。一方、会員数の減少傾向が変わらないことから、将来の学会活動の低下につながることへの懸念が示され、長期的視野に立った対策の必要性が指摘された。

議案4：日本気象学会第37期役員選任について

新野理事長から、第37期役員候補者選挙における当選者並びに当選者の推薦による理事候補者、地方区理事当選者の辞任に伴う追加推薦者、公益社団法人移行に伴う理事の辞任と支部長会議の設置について説明があった。候補者の一覧は次の通り。

・役員候補者選挙において当選した候補者

(1) 全国区・理事

近藤 豊, 田中 博, 新野 宏, 中島 映至, 佐藤 薫, 余田 成男, 中村 尚, 佐藤 正樹, 塩谷 雅人

(2) 地方区・理事

(北海道支部)

長谷部 文雄, 黒良 龍太

(東北支部)

長谷川 洋平, 岩崎 俊樹

(関東支部)

三上 正男, 藤部 文昭

(中部支部)

中村 健治, 高瀬 邦夫

(関西支部)

須田 一人, 竹見 哲也

(九州支部)

廣岡 俊彦, 郷田 治稔

(沖縄支部)

山田 雄二

(3) 全国区・監事

高谷 康太郎, 岡本 幸三

・理事候補者選挙当選者からの推薦による理事候補者（細則第6条第9項の規定に基づく）

藤谷 徳之助, 経田 正幸, 徳廣 貴之, 里村 雄彦, 楠 研一

・理事候補者の辞任に伴う追加推薦者（細則第6条第11項の規定に基づく）

(辞任理事候補者)

黒良 龍太, 高瀬 邦夫

(後任理事候補者)

柴田 誠司, 神田 豊

議案5：2012年度事業計画（案）

経田理事から、従来の事業に加え、新公益法人制度の下で2012年度に公益社団法人の認定申請を行うと共に必要な準備を進めることが提案された。

議案6：2012年度収支予算（案）

徳廣理事から、会員管理ソフトの更新やWeb会議システムの増強等のため、経常経費が増加することが説明された。

議案7-1：公益社団法人日本気象学会定款（案）

議案7-2：公益社団法人日本気象学会細則（案）

藤谷理事から、公益法人移行に伴う新定款案並びに新細則案について、現行の定款・細則と異なる主な点を中心に説明が行われ、併せて今後のスケジュールについても説明が行われた。

- ① 会員制度の変更
- ② 総会の成立要件
- ③ 理事定数の見直し
- ④ 常任理事会の廃止と理事会による全面的な業務執行
- ⑤ 業務執行理事の選任と副理事長の設置
- ⑥ 総会と理事会の役割分担の明確化
- ⑦ 役員選挙制度の変更
- ⑧ 支部長会議の新設
- ⑨ 細則の理事会決議事項化

(2) 質疑応答

- ① 議題7-1に関して、新法人制度では理事会と総会の成立が難しくなるのではという質問があった。藤谷理事から、TV会議システムによる理事会への出席等は運用上認められていることから、日本気象学会でも現行のWeb会議システムを充実することで対処するとの説明がなされた。一方、総会への会員の電子参加・電子採択導入については、セキュリティ等に配慮したシステムの導入には、多額の費用を要するため、これまでと同じく参加票を使用するとの説明がなされた。
- ② 議題7-2に関して、新細則案第5条(2)にある「気象集誌」のあるべき表記はJMSJか気象集誌かという質問があった。新野理事長から、理事会で審議し必要なら細則の変更を行うこと、佐藤理事からISSN登録番号取得などでは併記している現状の説明があった。
- ③ 会員であることのメリットについて、何か特典を考えていないかという質問があった。新野理事長から、現状の特典に加え、より目に見える形のものを用意する必要があること、理事会でも検討している課題であり、会員向けのWebコンテンツの用意などを想定していることの説明があった。

6. 採択

議案1～7について、瀬上議長より議題7-1の定款の変更については定款第53条により通常会員現在総数の3/4以上の議決が必要になっていることの説明があった。採決の結果、有効総会参加票（下記註）も含め以下のように賛成多数で承認された。

議案1：賛成 881, 反対 0, 保留 1

議案2：賛成 882, 反対 0, 保留 0

議案3：賛成 882, 反対 0, 保留 0

議案4：賛成 877, 反対 2, 保留 3

議案5：賛成 881, 反対 0, 保留 1

議案6：賛成 880, 反対 0, 保留 2

議案7-1：賛成 876, 反対 0, 保留 6

議案7-2：賛成 876, 反対 2, 保留 4

[註] 有効総会参加票 : 882票
全議案に賛成 : 453票

議長委任（賛成） : 280票
議案毎に賛否 : 149票.

7. 議事録署名人の指名

議事録署名人に藤部文昭会員（気象研究所環境・応用気象研究部）と増田一彦会員（気象研究所気象衛星・観測システム研究部）を指名したところ、異議なく承認された。

8. 議長解任

瀬上議長により、総会の議事運営に関する出席者の協力に感謝する旨の挨拶があり、議長は解任された。

9. 閉会

経田理事により総会の閉会が宣言された。

以上の議事録の通り相違ありません。

平成24年6月18日

総会議長	瀬上 哲 秀
出席者代表	藤 部 文 昭
出席者代表	増 田 一 彦